JAPAN CREATIVITY SOCIETY
日本創造学会
JCS NEWSLETTER
Feb 2020 No.1

日本創造学会第14期（2020年1月～2022 年12月）役員紹介

会長　田村新吾

会員の皆様、二度目のオリンピックの年を迎え、気持ちも新たな年を迎えられていることと思います。日本創造学会も、理事が刷新され、令和にふさわしい陣容になりました。永井由佳里先生という、初めての女性理事長をお迎え出来たことも、春風のような爽やかさを感じます。　子年は暴れると古来言われていましたように、今年は世界の政権変化、AI経済のさらなる進展、よりアクティブな教育の見直し、海外との和平と協働関係など、明治時代を思わせるような刷新ムードが広がっています。さらにコロナウィルス、白頭山の噴火の有無によって、オリンピックの開催も心配されるなどの報道もなされています。

このような変動の時こそ、新たな社会の芽が出てくることは明治維新、太平洋戦争後の日本人の行動が証明しています。私はCBCと呼んで、チェンジがあると、バランスを取る力が働き、新たなチャンスが生まれると考えています。そのチャンスを生かす行動が「創造」です。日本創造学会は他の専門学会と異なり、専門間の共有部分である「創造」を研究課題に取り上げた学会で、即物的な議論よりも、創造的感性の研究のように心理学的な要素も多分に含む、研究課題が多い点が特徴です。その意味で、研究者も文武両道ではありませんが、教育面、産業面等多岐にわたる分野の方々のご参加を歓迎しております。その活動範囲も東京集中ではなく、西日本支部も軌道に乗っており、徐方啓理事の主導で、当学会が発起人となって、世界の創造性研究の学会との連携が促進され始めました。今後は、学術関係者、学生、企業そして世界との幅広い知見を集めた学会に進展していきます。特に、一般の方々のご参加も大歓迎の「クリエイティブサロン」、年初に発売された日本創造学会監修「実例から学ぶ創造技法」(日科技連)を職場の座右に置いて頂き、新たな入会者をお誘い頂いて、日本人の創造性をさらに高めていこうと考えております。

理事長　永井由佳里　　Webサイト・論文誌/J-Stage担当

第24期の理事長をつとめさせていただくことになりました。皆様、どうぞよろしくお願い致します。就任にあたり、日本創造学会の設立や運営の重責を果たしてこられた方々に対して、畏敬の念を抱くばかりです。先輩方の限りない情熱とご尽力の賜物で本学会の現在があり、また、多くの会員の皆様のご参加のおかげで発展してきたことへの感謝の気持とともに、身の引き締まる思いがいたします。引きつづき、これからの時代や社会の期待に応える学会活動を展開していくことをお約束いたします。

2020年を迎え、未だ解決できない社会課題が山積みだと言われています。個人の創造性のみならず社会的なレベルの創造性が発揮されるべきですが、いよいよその質が問われる時代だと言っても過言ではないでしょう。本学会はそのイニシアチブをとる頭脳であり、実践者たちが集う場であると考えています。多様な個性が活かされるよう、ますます交流を深めましょう。

副会長　理事　前野隆司　　外部広報担当

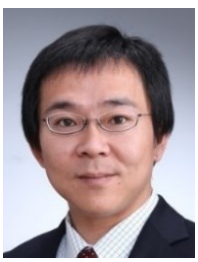
副会長に就任しました、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（慶應SDM）教授兼慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長の前野隆司です。慶應SDMでは、デザイン思考をはじめとするイノベーションのための方法論の教育・研究や、アクティブラーニングによる創造的な教育法の開発、人々のウェルビーイングに資する教育・研究などを行ってまいりました。今後も、教育・研究により創造学の発展に寄与したり、イノベーション関連の産官学や関連学会との連携をこれまで以上に強化していくことにより、日本創造学会の発展を担っていきたいと考えています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

副理事長　豊田貞光　クリエイティブサロンティブサロン企画担当

本年、副理事長を拝命いたしました豊田貞光です。今年は東京オリンピック・パラリンピックの年ですね。とてもワクワクしています。

さて、高島易断「令和2年神宮館運西暦」によれば、五黄土星（当方の暦）は「目の前の障害を取り除きながら新たな道を切り開く、じっくり育てて来た計画を実らせる、人間関係良好、新たな出会い生まれる」とあります。よって、今年の抱負として、目前の障害（身体および記憶の劣化）を改善しつつ、研究大会、クリサロを積極的に盛り上げます。また、新たな理事会メンバーとも良好な関係を築き、しっかりとした土台作りと新しいことに取り組んでまいります。よろしくご支援、ご鞭撻願います。

理事　川路崇博　　Webサイト・論文誌/J-Stage担当



Webサイトに加え、論文誌・J-Stageの担当もいたします。実践的な内容で示唆に富んだ投稿は、学術論文としての採録だけではなく、実践研究あるいは研究ノートとして広くその成果をお伝えできればと考えております。また、学会Webサイトも再構築してすでに10年が経過しようとしており、現代的とは言えない部分もあります。そこでより分かりやすい情報の伝達を考えてまいります。

理事　國枝佳明（新任）　クリエイティブサロン運営担当

クリエイティブ・サロンの運営を担当することになりました東京海洋大学の國枝佳明です。「なんであんたが創造学会なの？」とよく訊かれます。社会に出てからの多くを練習船で教官として過ごし、練習帆船の船長をしていた私には、怪しい「想像」はしても「創造」はできないと思われがちです。しかし、創造学会と縁があり、私のような者でも懐の深いこの学会に入れていただき、いつも目から鱗の驚きを持って勉強をさせていただいています。AI＆IoT時代、自動運航や自律運航の研究が進む今、われわれ人間はどうあるべきか？その答えは本学会から見出されるのではないかと思います。学会活動やクリエイティブ・サロンを通じて、「創造性」の奥深く、魅力的な世界を多くの皆さまとともに探究できればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

理事　徐　方啓　　国際・IACI担当

2020年からの新体制の発足に伴い、再び国際担当に戻りました。ところが、現在の国際環境は全く楽観視ができません。アメリカの自由貿易主義からの後退、イギリスのEU離脱、中国発の新型肺炎の蔓延など、どれを見ても暗いニュースです。国際担当としては厳しい船出です。理事会が若返ったことを歓迎しますが、自分はいつのまにか理事の中で最高齢になりました。それなら、すべて自分でやるより主に若い方をサポートするほうが学会の発展にとってプラスになるでしょう。前の任期（2017-2019）を振り返ると、国際会議を開催するという公約を確かに遂行しました。今度の任期中に何をやるかを考えなければなりません。幸い、一昨年日本創造学会が音頭を取って国際創造学会連合会（IACI）を立ち上げたので、今後その舞台を活用したいと思います。まだ構想段階ですが、任期中国際会議（ICCI）を1回開催したく思います。

理事　当麻哲哉（新任）外部広報担当

このたび、理事に就任いたしました、慶應義塾大学の当麻哲哉です。教員になる前、3M社の製品開発エンジニアとして、20年弱勤務しておりました（日本で12年、米国で7年半）。イノベーティブ・カンパニーとしてご存知の方も多いと思います。3Mの製品開発は、技術者個人のポジティブなマインドと、部門横断の人のつながりによるシナジー効果が機動力となっており、一昨年の第54回クリエイティブサロンにおいて、「イノベーションを生む企業文化と人材育成－3M社を事例としてー」と題してお話しさせていただきました。現在は大学教員として、クリエイティビティを育むチームワークやプロジェクトマネジメントの研究をしております。その関係で、昨夏より1年間、マサチューセッツ工科大学SDMプログラムに、訪問研究員として在籍しており、今夏に帰国予定です。それまでは遠隔にて理事の務めを果たしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

理事　西浦和樹　　ニューズレター･内部広報担当

三期目の理事を仰せつかった西浦です。今期は広報担当となりました。広報の主な役割は、学会員にとって役立つ魅力ある情報を提供すること、さらに非会員にとって入会してみたくなるような新鮮な情報を提供することと考えます。
今期のニューズレターから新しい試みを企画しています。一つは、「クリエイティブサロンなどの学会活動に積極的に参加されている若手の学会員」をピックアップして、「暮らしの中の創造性」に関するトピックをご提供いただくことにしました。トピックの提供は、自薦他薦を問いません。年4回程度のニューズレターを使って、会員の皆様に新しい情報を発信し、会員同士の活発な交流や、創造性を大切にする動きが出てくればと思います。
もう一つは、クリエイティブサロンの案内メールを使って、過去のクリエイティブサロンの開催報告（アーカイブス）を活用できないかなども検討中です。将来、誰かの役に立つ情報発信の場となるよう、広報の仕事に取り組みます。

理事　丸山一芳（新任）クリエイティブサロン企画担当

はじめて理事を拝命いたしました丸山です。専門は、知識経営であり、イノベーションやアントレプレナーシップについて知識を鍵概念に研究しております。最近では、日本酒や銅器、着物などの伝統産業や伝統産地での企業の連携によるイノベーションについて調査しております。また、実務家出身でありますので創造の現場にこだわっております。微力ながら貢献できますよう、諸先輩方にご指導いただきながら活動してまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願い致します。

理事　白坂成功(新任)　　外部広報担当

この度、理事　(広報（外部)担当)になりました慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（以下、慶應SDM）の白坂成功です。慶應SDMでは、システム思考とデザイン思考を融合したシステムxデザイン思考で世界をよりよくしていくことを目指し、教育・研究を積極的に進めています。一方、世の中を見ると、SDGsをはじめとして、世の中の課題を解決し、より良い未来を作り上げていくために、日本のみならず、世界で創造性が必要とされています。本学会は、創造性について日本でも最も歴史のある学会であり、創造性に関する教育、研究、実践を必要としている人々に対して創造性に関する有益な活動を提供できるコミュニティです。これまで慶應SDMで進化させてきた創造性に関する研究や教育の成果により学会に貢献するとともに、本学会を創造性に興味のある多くの人々に関与してもらうために、尽力していきたいと思っております。

監事　小粥幹夫（新任）

Society5.0は、情報から新しい価値やサービスが創出される超スマート社会である。同時に環境問題や少子高齢化が進み、雇用環境や社会構造も大きく変化して予測が困難な時代でもある。こうした社会を生き抜くためには知識以上に思考力が重要で、”主体的・対話的で深い学び”(AL)や教科を超えた”探究”を、外部の力も活用して支援する体制(CM)へと学校教育改革が進んでいる。トップダウンのPDCAでなく、現場の実践の積み重ねの上に、目標やゴールも含めた柔軟で持続的な集団改善が必要である。問題解決を含む知識創造の専門家集団である本学会は、思考や創造についての蓄積した知見を動員、他の学会にも働きかけ、時代の要請を受けた教育理念の実現に向けて積極的な努力をすべきである。今年度から監事に就任、本学会の進むべき方向と役割を見直し、問題解決学を樹立して新たな文化構築を目指したい。

監事　藤原由美（新任）

監事を仰せつかりました産業能率大学の藤原由美と申します。当学会に入会して5年目で初めての担当ではありますが、第三者の立場で学会の運営を監査していくと共に、他の役員の方々と一緒に、今後の学会の発展のため貢献できるように努めさせていただく所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

評議員長　高橋　誠（理事会協力役員・アドバイザー）

創造学会には1979年の発足時より参画し、1981年に理事に就任以来、2019年末まで38年間の長きにわたり、役員を務めました。副理事長、理事長、会長も歴任しました。その間、中国や韓国の創造学会の設立支援、米国や欧州などの創造学会との交流、また日経と共催で「創造型企業」「クリエイティブな暮らし」など6回のシムポジウム開催や日経本紙に約50回、日経産業新聞に約40回の記事や広告を掲載するなど産学共働も推進しました。1983年より10冊刊行の「創造性研究」を推進しましたが、本年1月には、学会として25年ぶりの本「実例で学ぶ創造技法」を編著者として、発行を主導しました。私は創造技法の研究者ですので、本書はその集大成であり、私の学会引退の記念書になりました。今年からは評議員長として、新理事会への学会資産の引継ぎ、学会の長期ビジョン作成などのお手伝いをします。皆様、今後ともどうぞよろしくお願いします。

副評議員長　國藤　進（理事会協力役員・アドバイザー）

東京創造性懇話会から日本創造学会創設時のコーディネーターを務めた國藤です。1992年の北陸先端科学技術大学院大学への教授招聘以降、日本創造学会の評議員、監事、副理事長、理事長、副会長、会長、理事を歴任しました。その間、論文誌の学術誌としての改革や学会の多くの賞の創設、クリエーティブサロンの活性化に努めました。これらのノウハウを後任に伝えると共に、日本創造学会協賛の国際会議KICSSの持続的継承に努めたいと思います。

西日本支部長　峰滝和典（新任）

この度、西日本支部　支部長に就任することになりました近畿大学経営学部教授峰滝和典と申します。宜しく御願い申し上げます。1990年代後半よりICT(Information & Communication Technology)がもたらす影響を経済的・社会的側面から分析してきました。これまでの研究成果をもとに、日本創造学会のさらなる発展に微力ではありますが貢献する所存でございます。AIの普及とともに人間が本来持っている創造力の重要性が高まってきます。人材育成の観点も重視したいと思います。

評議員

石井力重、奥正広、紺野登、櫻井敬三、保井俊之、リード ウイリアム

日本創造学会西日本支部第3回研究発表会

西日本大会実行委員長：川路崇博

毎年秋に研究大会を開催しておりますが、地方在住の会員にとっては発表の場が十分であったとはいえませんでした。このことから、2016年より西日本支部研究会が開催されています。過去2回は近畿大学で開催されました。2020年は久留米大学（御井キャンパス）にて、5月30日（土）に開催いたします。久留米市のある福岡は、市街地と空港がとても近いことや、新幹線など陸路のルートも発達しておりますので、案外「近く」感じると思われます。

会場の久留米大学がある久留米市は、ソーシャルビジネスや市民活動が盛んな地域です。そのまちに関して、彼女を知らない者はいないという中村路子氏をお迎えし、地方都市と女性起業家をテーマにお話しを頂く予定にしております。研究発表をする場合の申込・原稿締め切りは4月30日、発表をしない場合の参加申し込みは5月10日です。福岡県で研究大会や発表会が開催されるのは初めてとなると思います。ぜひ奮ってご発表、ご参加ください。

【Webページ】 http://www.japancreativity.jp/conference/3rd_west/index.html

※西日本大会プログラム詳細は上記ウェブページでご確認いただけます。

開催日：2020年5月30日（土）13：00～17：00

開催地：久留米大学（福岡県久留米市）

参加費：正会員3000円、学生会員2000円（事前申し込み）

申込方法：西日本大会ウェブサイトをご確認の上、下記アドレスに申込書を送付してください。

jcs_west_3rd@kurume-u.ac.jp（大会実行委員会）

第63回クリエイティブサロン開催のお知らせ

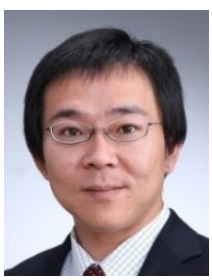
2020年度より、クリエイティブサロンは、午後15時－18時のスケジュールで開催されます。2月（開催済）、3月、5月、7月、12月の5回の開催を予定しています。会員・非会員を問わず参加できますが、定員の関係で開催日2日前までの事前申込みが必要になります。各回の日程等詳細は、学会ウェブサイトでご案内していきます。

開催日：2020年3月7日（土）15：15～17：50
会場：東京海洋大学1号館114教室

第1部
講師：田村新吾氏

日本創造学会会長、
NPO北海道活性化センタータクティクス副代表理事
アジア経営戦略研究所副所長
前始末協会顧問、企業顧問数社

混沌はチャンス -新興商品企画法（FALO）の解説とワークショップ-



第2部
講師：川路崇博 氏

日本創造学会理事
久留米大学准教授

ブレインライティングの過去・現在・未来

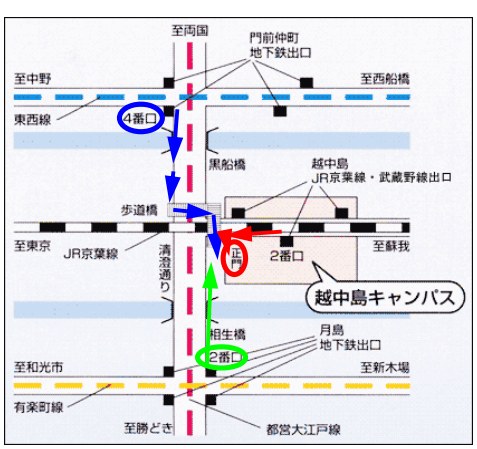
※講演詳細は学会ウェブサイトを御覧ください。

《スケジュール》

15：00　開場
15：15－16：30　第1部講演会+ワーク　講師：田村新吾氏
混沌はチャンス　-新興商品企画法（FALO）の解説とワークショップ
16：35－17：50　第2部講演会　講師：川路崇博氏
ブレインライティングの過去・現在・未来

※懇親会は中止となりました

会　場：　東京海洋大学越中島キャンパス1号館114教室 （定員30名） ※先着受付
所在地：　東京都江東区越中島2-1-6
参加費：　会員/無料　非会員/参加費1000円
※参加希望の方は、学会ウェブサイトより、［　］についてメールでお申し込み下さい。
［氏名/所属/会員or非会員］



・JR線京葉線・武蔵野線 越中島駅2番出口徒歩約2分

・地下鉄東西線・大江戸線 門前仲町駅4番出口徒歩約10分

・地下鉄有楽町線・大江戸線月島駅2番出口から徒歩約10分

▲▼▲第61回クリエイティブサロン（2019年 12月13日）開催報告▲▼▲

第１部講演会：みんなの教育：スウェーデンの「人を育てる」国家戦略

講師：西浦和樹氏
宮城学院女子大学教授
日本創造学会理事

世界最高水準の国際競争力は、スウェーデンの人を育てる仕組み、すなわち「教育」にあると考え、10年以上かかわってきました。日本でも自主性を重んじる教育の必要性が唱えられるようになってきましたが、あくまで教育は学校の中で行われるものであって、実社会とは「分けて」考えるのが日本では一般的です。しかし、学校と実社会を「分けない」ことで、将来の社会に活力を与える人材を作っていこうとするのが、スウェーデン流です。

本講演では、「就学前からの起業家精神教育」「アウトドア教育とアクティブラーニング」「幅広いインクルーシブ教育」「投票率85％の国の主権者教育」「人生100年時代のリカレント教育と生涯教育」といった話題提供を行いました。幼児教育に関しては、3つの柱となる資質・能力の育成が求められています。ところが、現場の先生方にとっては、保育活動がベースになっていないので、保育要領と保育活動の接点が見出しにくくなっています。これでは、教育の質を向上させることができません。スウェーデンでは、学習者（アントレプレナー）を中心に据えて、学習目標を柔軟に修正・アップデートできる未来潮流を取り入れる仕組みが作られています。具体的には、デジタル社会の危険性に警鐘を促し、アナログな変化に気づく感性を育てようとするアウトドア教育です。それによって、「生きる力」から「生きる喜び」を育てるモチベーション教育の試みがなされています。もちろん、2018年に改訂されたスウェーデンの保育要領では、「デジタルリテラシー」をキーワードとした実践もなされています。スウェーデンの教育が大切にしていることに、「子どもの権利」があります。なぜ子どもの権利が大切にされるのでしょうか。この質問に対する答えは明確で、子どもの環境を整えることができるのは大人しかいない。その子どもは実際に政治参加できない。したがって、大人が子どもを守るべきである、という合理的な結論が導かれます。その結果、スウェーデンの投票率は85％以上で、国民の意識の高さがうかがえます。
日本が本当の意味で質の高い教育を実現することができるよう、スウェーデンの教育から学び、持続可能な教育システムへの転換が必要な時期に差し掛かっているのではないでしょうか。　（記事：西浦和樹）

第2部講演会：　全国に拡がる教育による地域活性化と高校魅力化プロジェクト～鍵となるPBL/STEAM教育～

講師：藤岡慎二氏
株式会社Prima Pinguino　代表取締役
北陸大学経済経営学部　教授

全国の離島中山間地域で教育を通じた地域の活性化として、「高校魅力化プロジェクト」が拡大しています。その地域における高校の有無が子育て世代の移住定住・UIターンなどに影響し、地域の衰退に関連すると言われているからです。島根県立隠岐島前高校プロジェクトをきっかけとして、全国で魅力化プロジェクトが始まっています。離島で始まった高校魅力化プロジェクトは、今は文科省や内閣府の地方創生政策の一環となりました。一見順調なような魅力化プロジェクトですが、財源や人材の確保や自治体をいかに巻き込んでいくか、など様々な問題があります。

このワークショップでは、持続的な魅力化プロジェクトの発展をいかに仕掛けていくのかについて議論することを目指しました。当日は、講師の方から高校魅力化プロジェクトに関して１時間ほど情報提供を行いました。高校魅力化プロジェクトが始まった背景、意義、地域活性化に与える影響、全国での高校の事例などについて話した後、地域みらい留学をテーマにワークショップを実施しました。まずこの発表を通じて抱いた感想を隣の人と意見交換しました（バズセッション）。その後、地方の高校魅力化の状況を鑑みて以下の観点で意見をブレストし、KJ法でまとめました。
Keep：良いこと、このまますると良いこと
Problem：問題だと思うこと、放っておけないこと
Try：今後にすべきこと、解決策
その上で、地域みらい留学以外の留学名を考える課題について考えていただきました。ブレインストーミングやKJ法に慣れている創造学会の会員ゆえに、ワークショップは盛り上がった様に思えました。留学の名前も奇抜なものや突飛なアイディアが出たが、創造とは多産多死であるがゆえに、意見を発散して出していく会員の姿に流石だと感じた次第です。　（記事：藤岡慎二）

▲▼▲第62回クリエイティブサロン（2020年 2月1日）開催報告▲▼▲

第１部講演会：「ABCDEの時代」をどう生きるか」

講師：高橋　誠
（株）創造開発研究所 代表・博士
日本創造学会評議員長

私はこれから創造性の発揮を目指す人は、「ABCDE」を意識して行動すべきと考えます。
ABCDEはそれぞれ、AはAI、B はBelief、CはCreativity、DはDesign Thinking 、EはEthicsになります。順に説明します。
私たちはまず、AのAIの動向を必死に学習しなければならないと考えます。AIは人の仕事の半分を奪う、いや1割程度だ、など多様な研究がありますが、AIがこれから人間に多大な影響を与えることは間違いありません。ぜひ深層学習の展開を見守りましょう。
B はBeliefです。Beliefには信念と信頼の2つの意味があります。自分が目指す創造は何なのか、自己課題を明確に決め、その課題を信念をもって実践することが欠かせません。そして、仲間の信頼を勝ちとり、共働して創造に向かうことが大切です。
C はもちろんCreativityです。自分の創造性を伸ばすことが大切なのは論を待ちません。私は創造性の開発には「5つのP」を身につけるべきと考えています。それはPrinciple（創造の基本）、Principal（創造の主体）、Place（創造の分野）、Process（創造の手順） Procedure（創造の技法）の５Pです。これらの内容はぜひ、「実例で学ぶ創造技法」などで学んでください。AIに対抗できる人間の能力の最大のものは創造力なのです。DはDesign Thinking、デザイン思考です。デザイン思考は、創造性の発揮に創造技法を、総合的に活用するステップを提示したところにあります。私はこのステップを、1. 観察（Search）、2. 思考（Think）、3. 評価（Evaluate）、4. 試行（Prototyping）、5. 実践（Practice）のSTEPPにまとめています。この各ステップで創造技法を活用します。
EはEthics、倫理です。倫理観を欠いた独創は独走です。最後は倫理で自戒すべきです。
【講演所感】
講演は私の学会での経歴も含めて話させていただきました。多くの方に熱心に聴講いただき、大変感謝しています。講演の最後をF、Finishとしましたが、永井理事長からFuture でしょうとアドバイスされました。確かに創造は誰にでも未来永劫の課題といえます。　（記事：高橋誠）

第2部講演会：　マイファミリーストーリとしての創造性教育への道

講師：國藤進
北陸先端科学技術大学院大学名誉教授
兼非常勤講師
日本創造学会副評議員長

教育熱心な母親・父親・叔父たちの影響で中学・高校時代に発明・発見少年になった講演者が、大学・大学院時代に川喜田二郎、森政弘といった名伯楽に会い、創造的な研究者・教育者となったストーリを個人的エピソード満載で講演した。特に川喜田二郎から学んだKJ法と森政弘から学んだ人工物創造（デザイン思考）をW型問題解決学として血肉としていった。北川敏男とのご縁で富士通㈱国債情報社会科学研究所に就職した。18年間勤務した際、第五世代コンピュータプロジェクトに従事し、ここでの活躍が認められ、1992年に北陸先端科学技術大学院大学に招聘された。初代学長慶伊富長の命で知識科学研究科の創成にも加わった。ここでの23年間の勤務を経て、副学長等を経て、現在名誉教授である。
この間、未知の問題にアタックする際にW型問題解決学を利活用し、アブダクションやインダクションの実装を行い、それなりの成功をおさめた。ある時期から研究開発成功のために夢を見ることの重要性に目覚め、國藤流の「ゆめがく」で困難な問題を解決している。個人情報満載のエピソードは面白く、かつ有益との指摘が聴衆からあり、講演後および懇親会で質問が集中したのが記憶に新しい。

（記事：国藤進）

KICSS2019報告

14th INTERNATIONAL CONFERENCE on Knowledge, Information and Creativity Support Systems

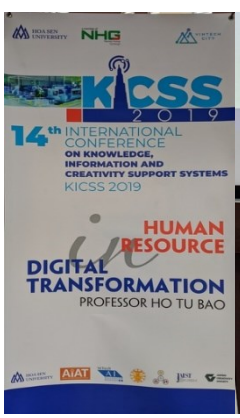
日本創造学会も共催の国際会議KICSS2019がベトナム、ホーチミン市の中心部にあるホーセン大学で、2019年11月21日―23日に開催された。國藤進が名誉大会長、永井由佳里がプログラム委員長の関係で、多くの日本創造学会の正会員・学生会員が参加発表した。

正会員として櫻井敬三、川路崇博、高橋文行、三浦元喜、羽山徹彩、岡田政則、姜理恵、下郡哲夫、國藤進が参加・発表し、学生会員として 今村新、有賀三夏、Zitong Cheng、Kieu Que Anh、Liu Xiaoxiao 、江野泰子、河崎屋宏康、戸部田貴裕が参加・発表した。

なお三浦元喜九州工大准教授がKeynote Speech、JAIST院生Liu XiaoxiaoがBest Student Paper Awardを受賞した。

参加者はベトナム、タイ、中国、日本等で、日本からの参加者が最も多かった。大会の様子は写真に見られるように、活発な質疑が続き、かつベトナム風の熱気と食事をエンジョイした。

なお次回のKICSS2020はオーストラリアのタスマニア大学で、開催時期は絶好の行楽シーズンの11月25－27日である。正会員・学生会員の方は奮って参加されたい。　（報告：國藤 進）



KICSS2020の開催地はTASMANIA!

※参加申込詳細については後日お知らせいたします。

UNIVERSITY of TASMANIA
AUSTRALIA

日本創造学会 監修の 書籍紹介

「実例で学ぶ創造技法」のご紹介

日本創造学会監修・高橋　誠編著（日科技連出版社）
2,530円（税込）

本書のポイントを短文でまとめれば、「創造性の研究と実践をする最先端の創造学者による、人々の問題を解決するための実践書！」とでもいえましょう。
本書は、創造的な問題解決に使える「創造技法」を、具体的な実践に使えるように書かれた本です。
紹介する17技法は、創造技法の定番の技法です。本書では各技法紹介の前半で、技法の基本と進め方を解説し、後半で読者が現場で活用するのに参考になる実践例を載せました。特に、企業や教育界など、技法の社会現場での活用例を多数、具体的に紹介しました。
本書は、まず「まえがき」と「本書の使い方」から始まります。
そして章立ては
第Ⅰ部　発想を日々の習慣にさせる法：「アイデアマラソン発想法」「セレンディピティ活用法」「アイデアスケッチ」「MIセオリー」
第Ⅱ部　ひらめきを誕生させる発想法：　「ブレインストーミング」「ブレインライティング」「マインドマップ」「NM法」「行動観察」
第Ⅲ部　アイデアを企画にまとめる技法：　「KJ法」「TRIZ/USIT法」「FALO」「デザイン思考」
第Ⅳ部　企画を実現させる技法：　「企画書作成法」「フラット3」「ビジネスモデル・キャンバス」「目的工学ワークショップ」です。
執筆は、日本の創造性研究をリードする日本創造学会の研究者中心の、創造技法の専門家達です。本書は、新人からベテラン社会人までの幅広い方々に理解していただけるよう、各技法記入の項目を統一し、専門用語はできるだけ排除し、読みやすく、わかりやすいものを目指しました。本書で、創造技法を理解し、読者の皆様が、自分の仕事や個人の問題解決のために使っていただければ幸いです。　（高橋　誠）

暮らしの中の創造性
キッチンは創造性を鍛える実験室

門田由貴子
（日本創造学会会員/経営コンサルタント）

将来あらゆる分野でAI活用が進めば、人類は労働から解放されて、「個性の発揮」「楽しみの追求」が人生の目的になると予想されています。医学の進歩で、寿命は120年へ。時間はたっぷりあるので、クリエイティブな人々には最高の日々となるでしょう。
しかし、悲観的な未来シナリオもあります。創造性を発揮できない人にとって、長い人生は時間を持て余してしまい、退屈からうつ病の発症が増えるとも予測されています。
つまり、今後の人生を有意義で楽しいものにする鍵の一つが、創造性なのです。ぜひ、今から鍛えておきましょう。
創造性開発のためのオススメは、「強制連想法」を使った創作料理です。１～13から、好きな数字を３つ選びます。たとえば「２・７・10」。数字を下の表に当てはめると、【A】素材、【B】味付け、【C】調理方法が決まります。その組み合わせで、どのような料理が創れますか？　Let's try!　ご自宅のキッチンが、未知なる味覚を生み出す実験室に早変わり。オリジナル料理の開発は、脳にとって新しい刺激となることでしょう。
ただし、実験には失敗もつきもの。失敗を笑って受容できる広い心も大事ですね。

【A】素材	【B】味付け	【C】調理方法
1．葉物野菜	1．塩＋こしょう	1．生食
2．根菜	2．トマトソース	2．茹でる
3．きのこ	3．ホワイトソース	3．煮る
4．鶏肉	4．デミグラスソース	4．炒める
5．豚肉	5．カレー	5．フライパンで焼く
6．牛肉	6．出汁＋しょうゆ	6．グリルで焼く
7．とうふ	7．出汁＋みそ	7．オーブンで焼く
8．豆	8．コチュジャン	8．電子レンジ
9．卵	9．甜面醤	9．油で揚げる
10．果物	10．豆板醤	10．炊き込みご飯
11．乾物	11．しょうが	11．水炊き・鍋物
12．缶詰	12．ガーリックオイル	12．蒸す
13．練り物	13．マヨネーズ	13．和える

入会者紹介

入会者（入会順）

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
外山　千草	学生会員	星槎大学大学院	鹿児島県	創作ワークショップの実践と研究 児童福祉
奥平　啓太	学生会員	東京海洋大学 大学院	東京都	航海学 人間工学・安全工学
森田　克良	正会員	テック ビークル	神奈川県	商品企画 自動車工学（電動化、自動運転技術）
見山　謙一郎	正会員	専修大学	神奈川県	経営学・技術戦略論 SDG s
猪股　優一	正会員	長谷工コミュニティー	埼玉県	論理学・情報学 創造技法

新年度　住所・所属等の変更はありませんか？

卒業・転属等で住所・所属先、会員種等が変更される方は、お手数ですが学会事務局まで変更についてご一報下さい。学会ウェブサイトより変更届がダウンロードできます。

会費納入のお願い

2020年度の会費納入期限は2月末日となっております。
学術団体である当学会は、会員の皆様の会費により運営されております。
より充実した学会活動を展開するために、納入のご協力をお願い申し上げます。
所属機関の会計処理の都合で2月末までの納入が難しい場合は、学会事務局までご連絡ください。

【郵便振替（郵便局窓口）の場合】

00160-6-126409　（加入者名：日本創造学会）

【銀行振込・インターネットバンキングでの振込の場合】
ゆうちょ銀行　店名０１９店（ゼロイチキュウ店）
当座　0126409　　ニホンソウゾウガッカイ

事務局メッセージ

・2020年度よりクリエイティブサロンは、東京海洋大学越中島キャンパスを主軸に午後15時スタートの時間帯で開催されます。

・2020年度研究大会は産業能率大学自由が丘キャンパスで開催の予定です。日程詳細が決まりましたら、会員の皆様にお知らせいたします。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2020年2月発行（№1）
日本創造学会事務局
発行人 ：　永井由佳里
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0031 千葉県市川市平田
1-10-2
Tel 080－3465－6152
Fax 047－718－1747
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp
http://www.japancreativity.jp/